



はさみや彫刻刀の使い方

図画工作や美術などの実技系教科では、道具や用具を使う機会が多くなります。特に、はさみや彫刻刀などの刃物類の基本操作を身に付けることは、発想や想像力を自由に表現するために必要不可欠な力です。しかし、このような道具や用具がうまく使えずにいる弱視の児童生徒は少なくありません。

《 はさみ 》 連続切りができない、刃先が紙にあたる様子や切る線が見えない

《 彫刻刀 》 刃の裏表が分からない、彫った所と彫っていない所が分からない

では、弱視の児童生徒が刃物類の基本操作を身に付け、授業のねらいを達成できるようにするためには、どのような工夫が必要でしょうか。

1. 道具の工夫

- ・手の大きさに合う道具を選ぶ。
- ・連続切りで刃を動かす範囲が分かるように、刃の真ん中にマジックやシールで印を付ける。(写真1)
- ・印を付けて刃の向きや裏表が分かるようにする。(写真2)



写真1

2. 教材の工夫

- ・紙の色や切る線の色、太さを習熟度や見え方に応じて変える。
- ・木版を黒く塗りつぶし、彫った所が分かるようにする。

3. 段階的な指導

- ・1回切り→2回程度で切れる直線切り→線に沿った直線切り→ジグザグや曲線切り、形の切り抜きなど到達度に応じて課題を変える。
- ・切ったり彫ったりする感覚を味わうために自由切りをし、力加減や切りやすい角度を覚える。
- ・薄手の画用紙などある程度厚みのある紙から徐々に様々な厚さの紙に変える。
- ・ゴム版などの彫りやすい素材から扱う。



写真2

4. 見えにくさを補い、安全に使うための工夫

- ・刃の形や裏表をじっくり触って確認する。
- ・拡大読書器やタブレットを用いて刃の構造や刃の出し入れの方法をよく観察する。
- ・刃に切れる向きと切れない向きがあることを伝える。
- ・使い終わったらすぐに刃をしまい、決まった場所に収納する。

道具を使用する授業の前に、自立活動の時間などで先取りして使い方を学習することが大切です。

【引用図書】

見えにくい子どもへのサポート Q&A 氏間和仁編著 読書工房
弱視教育 第四十六巻 第四号 日本弱視教育研究会